

「第23回夏季セミナー」について

<開催計画（案）>

1. テーマ : 次世代へつなぐ持続可能な九州モデルの実現
2. 日時 : 2026（令和8）年 8月4日（火）～5日（水）（1泊2日）
3. 会場 : 唐津シーサイドホテル
佐賀県唐津市東唐津4-182 TEL : 0955-75-3300
4. 出席者 : 九州地域の産学官のトップリーダー 120名程度
（知事・県議会議長、経済団体役員・会員、大学・高専関係者 等）
※他、基調講演者、分科会座長・事例発表者、随行者等130名程度
5. スケジュール（予定）

【1日目（8月4日）】	【2日目（8月5日）】
■14:00～14:15 開会式 挨拶「池辺会長、河野知事(宮崎県)、山口知事(佐賀県)」	■9:00～10:30 全体会議 座長（池辺会長）
■14:15～15:15 基調講演 講師 NHKインタープライム「イグゼクティブ・プレゼンター 堅達京子様	・各分科会からの結果報告（10分×4） ・意見交換（40分） ・座長総括（5分）
■15:30～18:00 分科会 幹事（福岡県、佐賀県、鹿児島県、九州商工会議所連合会）	
■18:30～20:00 意見交換会	

※セミナー前後に、海洋プラスチックプランニングセンター(PLA PLA)等の視察を実施
プレセッション：8/4 10:45～13:50、アフターセッション：8/5 10:50～13:55（両日とも同じ内容）

第1分科会：福岡県

テーマ：「持続可能な社会構築のための感染症対策とワンヘルス」

趣 旨

- 新型コロナウイルス感染症は、県域を越えて感染が拡大し、九州・山口のコロナ禍における死亡者数は1万人を超え、日常生活における行動制限や飲食店、集客施設等の営業時間の短縮、イベント等の中止などにより、令和2年度の域内総生産は前年度から約2兆円の減少となり、地域経済にも大きな影響を及ぼした。
- こうした経験等を踏まえ、九州地域戦略会議では、経済活動への影響を最小限に抑えるため、九州が一体となった官民連携の取組として、感染症の拡大防止と社会経済活動の両立の実現を目指すこととしている。
- 本分科会では、持続可能な社会構築を目指す観点から、パンデミック時の感染症対策や、人と動物の健康、環境の健全性を一体的に守るワンヘルスについての理解を深める。

論 点

- ・ パンデミック時における社会経済活動の維持継続
- ・ ワンヘルス・アプローチによる技術開発と社会実装
- ・ ワンヘルスの視点を踏まえた地域の取組評価とその活用

座 長

九州大学 総長特別顧問 清水 周次 氏

事例発表者

内閣官房内閣感染症危機管理統括庁（対応者は後日決定）

株式会社アルスロン 代表取締役 荒木 啓充 氏

九州大学工学研究院 主幹教授 馬奈木 俊介 氏

第2分科会：佐賀県

テーマ：「アンコンシャス・バイアスの気づきから職場・地域を考える」

趣 旨

- 価値観は人それぞれ多様。ありたい自分を思い描きながら生き活きと暮らしていける環境づくりをすすめたい。
- 「固定的な性別役割分担意識」や「アンコンシャス・バイアス」は、自分自身が希望する生き方をあきらめてしまったり、若年女性の地方から都市部への転出の要因の一つにもなっている。
- 本分科会では、女性も男性も生き活きと暮らしていけるよう、「固定的な性別役割分担意識」や「アンコンシャス・バイアス」について考え、課題に気づききっかけとしていただくことを目的とする。

論 点

- ① 若年女性の居心地の悪さにつながっていきそうなこと
- ② 職場や地域で行動を変えていくためにできること

座 長

佐賀県立男女共同参画センター（アバンセ） 館長 副島 三記子 氏

コメンテーター

佐賀県知事 山口 祥義 氏

事例発表者

旅館あけぼの 代表取締役 音成 亜美 氏
株式会社音成印刷 代表取締役社長 音成 信介 氏
五町田酒造株式会社 取締役 瀬頭 結美 氏

第3分科会：鹿児島県

テーマ：「農林水産物の輸出拡大に向けて」

趣 旨

- 九州地域は農林水産業が主要な産業であり、農業産出額は全国の約2割を占めるなど、国内食料供給の重要な拠点となっている。
- 人口減少等により国内市場が縮小する中、農林水産物の更なる輸出拡大を図るためには、米国の相互関税措置や中東情勢など海外市場の不確実性が高まる状況において、既存の輸出先国に加え、新たな販路開拓など輸出先国の多角化を図ることが重要である。
- 輸出拡大に向けて、九州地域が一つの経済圏として連携し、様々な課題解決に向けて取り組むことの意義や、官民一体での輸出戦略の方向性について共有し、実現性のある取組につなげる必要がある。

論 点

- 輸出拡大に向けた生産体制の確立・強化
 - ・ 輸出に意欲的に取り組む生産者の確保・育成
 - ・ 輸入規制等に対応できる産地の育成
- 海外市場においてニーズのある農産物の生産拡大
 - マーケティングや販促活動を通じたニーズ等の把握と生産者等へのフィードバック
- 輸出先国の多角化に向けた新たな国・地域等における販路開拓

座 長

調整中

事例発表者

論点を踏まえた輸出拡大の取組について事例発表
調整中

第4分科会：九州商工会議所連合会

テーマ：「人手不足時代の企業経営 ～中小企業はAIとどう向き合うべきか～」

趣 旨

- 近年、生成AIをはじめとする人工知能技術が急速に進化し、産業構造や企業活動のあり方に大きな変革をもたらしつつある。特に、人手不足が深刻化する中小企業にとって、AI活用による省力化・業務効率化は、もはや避けて通れない重要なテーマとなっている。
- 一方で、多くの中小企業では専門人材の不足、導入コストへの不安や効果が見えにくいことなどから、AI活用には依然として高いハードルが存在する。
- 本分科会では、実際にAIを活用し先進的な取り組みを進める企業や、DX・AI活用を支援する企業、それぞれの視点での事例を共有しながら、「AIを経営戦略にどう組み込み、どのように導入を進めるべきか」について議論する。

論 点

- ① 中小企業がAI活用に踏み出す際の「壁」と、その乗り越え方－不安や成約、社内理解、外部機関の活用など
- ② AI活用を経営課題として位置づける際の判断軸－優先順位（どこから）と進め方（いつ・どこまで）
- ③ 環境変化に耐えうる地域経済のために必要な視点－サプライチェーン全体での推進のために

座 長

九州商工会議所連合会 会長 谷川 浩道 氏

NTT西日本株式会社 執行役員九州支店長 右田 聖秀 氏

事例発表者

嘉穂無線ホールディングス株式会社 代表取締役社長 柳瀬 隆志 氏

イジゲングループ株式会社 代表取締役社長 池 尚大 氏（予定：変更の可能性あり）